

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 No.350

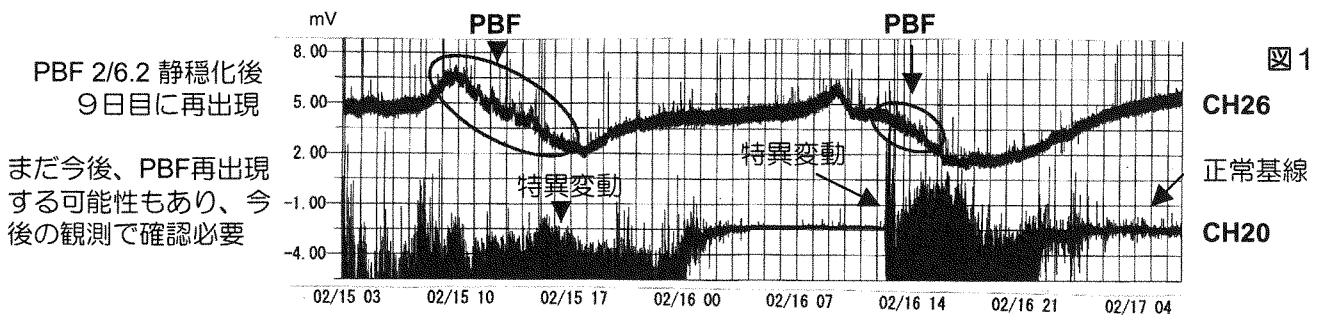
2023.02/17 (金曜) 13:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 串田 〒409-1502 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 電話 0551-38-3987 FAX 0551-38-4254

※PHP新書「地震予報」にNo.1778前兆について記したため続報公開。No.1778前兆は28年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動。しかし首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までは数日の可能性が高い。火山噴火も検知可能。これらのNo.1778前兆以外の他の地震前兆については本HPでは公開できません。E-mailまたはFAXで配信の観測情報でのみ公開しています。本観測をご支援下さる方に前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。

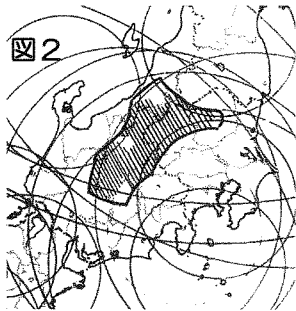
1778 続報 PBF 2/6.2 静穏化後 9日目に再出現 2/17.0 再び静穏化

「2/6.2 静穏化が 7/28.4 極大に対する」 また 「2/17.0 静穏化が 9/3.5 極大に対する」
終息と考えることもできるが、2/17.0 静穏化は 7/28.4 極大に対する終息の可能性



PBF 2/6.2 静穏化後
9日目に再出現
まだ今後、PBF再出現
する可能性もあり、今
後の観測で確認必要

- 推定領域：図2太線内領域
斜線域=火山近傍参考推定域
- 推定規模：M8.0±0.3
- 推定期期：
2/17.0 PBF終息の場合= 4月28日±3日
特異変動終息確認で修正
- 地震種：震源浅い地殻地震
- 推定発生時刻：午前9時±3
または 午後6時±3



今後PBF再出現しないか観測必要 特異終息時期観測と合わせ修正予定

八ヶ岳のCH26のPBF変動は1/31.5静穏化後、2/1深夜から再出現し、2/6 04時に静穏化しました。その後、9日間 PBF再出現はなく、完全静穏化の可能性と考えていました。しかし、図1波形のとおり、2/15午前中にPBFが僅かに再出現。2/16午後にも極めて微弱にPBFが見えます。また図1の下基線のとおり、昨年夏時期から継続していたCH20の特異変動が2/17.0付近から正常基線に復

帰しました。PBFは9日間も再出現がなく静穏基線だったことから、PBF継続とは少々考え難く、2022.7/28.4極大に対して2/6.2終息とし、9/3.5極大もPBFのため、2/17.0終息が9/3.5極大に対する終息の可能性も考えました。この場合は4/14±3発生の可能性が示唆されます。しかし、CH20特異は図2のとおり、7/28.4極大時期からも出現していますので、他のCH21,K8等の特異が現在継続中であることから、PBF=7/17.0終息と仮定した場合は、あくまでも2022.7/28.4極大に対する終息と考えた方が良く考えます。今後の継続中の特異変動の終息を観測し、修正予定。下図3は、あくまでも2/17.0 PBF終息とした場合の推定です。まだ確定ではありません。今後の観測で修正予定です。

